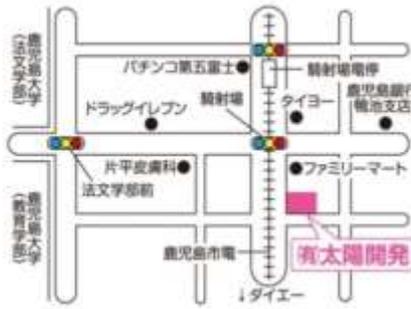


# SUNSHINE

第 91号 2016年 7月発行  
 有限会社 太陽開発  
 鹿児島市鴨池2丁目1-12 TEL099-255-3623  
 E-Mail master91@taiyou1991.com



太陽開発 検索 クリック!!

## 平成28年8月新築マンション Toscana -トスカーナ-

今回ご紹介させて頂くマンションは、今年の8月に完成予定の新築、【トスカーナ】です

新屋敷電停まで徒歩3分、天文館や中央駅までも徒歩圏内の場所にあり、ショッピングやお酒を飲みに出かけるのが大好き！という方にとって、最高の立地です。夏にはサマーナイトなど、錦江湾での花火大会に歩いて行けますよ(\*'ω\*)  
 建物は白と黒の配色でモダンなイメージの外観で、内装は白を基調としたおしゃれなお部屋に仕上がっています!(^^)!  
 設備として、オートロック、エレベーター、防犯カメラ、各部屋には浴室乾燥機、洗面化粧台、温水洗浄便座も完備。もちろん、インターネット無料で使い放題！  
 さらに、一番うれしいのが小型犬・猫が飼育可能なペット可物件であること！！  
 ちなみに全国のペット飼育意向(ペットを飼いたいという気持ち)がある人は3割を超えるそうです(^^)/



「入居者が快適に暮らせるように」「入居者様に喜んでもらえるように」というオーナー様の優しい思いが詰まったマンションがいよいよ完成します(^^)



私の息子がミャンマーのヤンゴンで生活をするようになって約3年になります。最近、久しぶりに息子に会ってみると、若干ですが、顔が変わってきているように思えます。顔の表情、皮膚の色から日本人ではなく東南アジア系(特にタイ人)の顔つきに似てきたように見えます。不思議ですね。

ミャンマーのランチ風景



私の妻の叔母さんは、吉野出身の西本願寺のお坊さんと鹿児島で結婚して夫婦そろってハワイへ渡り、御主人はハワイの西本願寺の住職を永いこと勤めていました。昔は鹿児島大学水産学部の練習船がごしま丸がハワイへ寄港したときは、迎見船長はじめ乗組員のみなさんが、西本願寺のお寺に寄ってくださっていたそうです。御主人が、住職を退職した現在もハワイに住んでいます。

叔母さん夫婦には子供が2人いますが(当然、純粋な日本人で日本語も完璧で、英語もOKです)外観上どうみても日本人ではなく、ハーフにしか見えません。会話を交わし、一緒に行動すると純粋な日本人との違いがよくわかります。ハワイで生まれて生活しているので、会話や行動が日本人的でないのは理解できますが、純粋な日本人なのに、外観がハーフに見えるのは不思議です。人は使う言語によって、舌や口や頬の筋力の使い方が違うので顔つきも違ってくるのか、生活習慣、食物、気候などを含めた文化的な環境の違いが原因なのか、とにかく変化や環境に順応する能力があるということでしょう。

永いこと夫婦をいっしょにやっていると、夫婦の顔も性格も似てくると私が妻に言うみたいへん嫌がられます。でも本当は、似ているから夫婦になったのか、夫婦になったから似てきたのかは別として、夫婦の顔、性格が似てくるのは事実でしょう。

毎日ニコニコ笑って楽しく暮らしている人、毎日暗く、不満を持って暮らしている人。前向きで積極的に生きている人、後向きで消極的に生きている人、2・3年後、自分がどのように変化に順応して変わっているのか楽しみです。

# CENTRE セントル



鹿児島中央駅  
 アミュプラザ鹿児島本館5F  
 営業時間 11:00~23:00  
 TEL099-230-0403

今回ご紹介させて頂くのは今年4月にオープンしたばかりの CENTRE というアミュプラザ鹿児島5階中央にあるイタリアンのお店です。店名の由来はフランス語で“中心”との意味があるそうです。お店の立地通り鹿児島市の中心に位置し、県内のお客様はもちろんのこと、県外や中国の方も数多く来店されているようです。鹿屋、福岡にも系列のお店があり、その街の中心で食の美味しさを発信しています。気さくな人柄の店長の小野田さんは弊社でマンションを購入して頂いたお客様です。鹿屋市出身であり、お店がオープンする以前は自営業でお店を運営されていたそうで、その能力を買われ現在CENTREの店長として腕を振っています。

数日前に予約を取り、待ちに待った当日(“ω”)のお店はお洒落な雰囲気、種類の違うテーブル席や半個室のようなソファ席がありました。今回はイタリアンの定番、ピザのマルゲリータ、クリームパスタ(季節の野菜使用)、タコのアヒージョ、エビのフリッターを頂きました♪どれも美味しいお料理でしたが、特にピザは絶品!! チーズのコクがあるうえに生地は軽くペロリと胃袋におさまりました。お店いちおしのメニューは親会社の老舗飼料販売会社寿商會が提供する大隅産のお肉だったのですが…今回は都合により食べそびれてしまいました。お値段手頃のステーキは次こそぜひピザに加えて食べたい一品です。ぜひ一度足をお運び下さい。



## 今月の一冊 No.90

近藤紘一

### サイゴンから来た妻と娘



戦火のサイゴンで日本の新聞記者が、大輪の花のような笑顔に惹かれて子連れベトナム女性と結婚した。親に絶対服従のマルタ教育にショックを受け可愛いベトナムのウキ料理に度肝を抜かれ…。毎日のように巻き起こる小事件を通してアジア人同士のカルチャーギャップを軽妙な筆で描く。大宅壮一賞受賞作品。

### サイゴンのいちばん長い日

窓を揺るがす爆発音、着弾と同時に盛り上がる巨大な炎の入道雲、必死の形相で脱出へりに殺到する群衆、そして戦車を先頭に波のように進攻してくる北・革命政府軍兵士…。一国の首都サイゴン陥落前後の混乱をベトナム人を妻とし民衆と生活を共にした新聞記者が自らの目と耳と肌で克明に記録した迫真のレポート。

1940年東京生まれ。早稲田大学文学部仏文科卒業。サンケイ新聞社入社。静岡支局を経て1967~69年フランス留学。1971~75年サイゴン特派員、1978~83年バンコク特派員。1986年胃がんのため死去。1979年「サイゴンから来た妻と娘」で第10回大宅壮一ノンフィクション賞、'80年ホーン上田国際記者賞、'84年「仏陀を買う」で第10回中央公論新人賞受賞。著書に「サイゴンから来た妻と娘」「バンコクの妻と娘」「したたかな敗者たち」「パリへ行った妻と娘」「妻と娘の国へ行った特派員」「仏陀を買う」「国際報道の現場から」(共著)等が

私は断片的な情報から、勝手な思い込みを抱く傾向があるようだ。「サイゴンから来た妻と娘」ではこうだ。近藤紘一氏…サンケイ新聞のサイゴン特派員として、南ベトナム無条件降伏、サイゴン陥落を体験。前の奥様との死別、自身も胃がんの為46歳の若さで他界。ナウ夫人(サイゴンから来た妻)…タリヤのような笑顔をもつ女性。そして、サイゴンという言葉の響きには、どこか哀愁を感じる…これは、ミュージカル「ミス・サイゴン」の影響だろう。そこから導き出された「サイゴンから来た妻と娘」のイメージは、妻を亡くした傷心の近藤氏、戦時下のサイゴンで心優れ献身的な未亡人ナウ夫人に出会い、再生してく…的な…哀愁と小さな幸せ漂うエッセイ…。しかし、読んでみると全然違った。テンポ良く軽快で、ユーモアに溢れている。ナウ夫人は未亡人ではなく、元夫とは彼の浮気が原因で離婚、しかも豪快で面倒見が良く、下町の肝っ玉母さん風。近藤氏はユーモアセンスに長けていて、文章も軽快で的確、さすがは新聞記者。一方の「サイゴンのいちばん長い日」は、サイゴン陥落の日を、新聞記者としての視点と、ベトナム人の妻をもつ日本人としての目を通して